

山形城三の丸跡第 24 次

遺跡番号 201-003
調査回数 第24次
所在地 山形県山形市本町1丁目外
北緯・東経 38度15分2秒・140度20分6秒
調査委託者 山形県村山総合支庁建設部都市計画課
起因事業 山形広域都市計画道路事業3・2・5号旅籠町八日町線
調査面積 550㎡
受託期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日
現地調査 令和5年6月6日～10月6日
調査担当者 渡辺和行（現場責任者）・大村暖奈・小林圭一
調査協力 山形市企画調整部文化振興課
遺跡種別 集落跡・城館跡
時代 奈良・平安時代、中世、近世
遺構 掘立柱建物・土坑・溝・石組み遺構・柱穴
遺物 土師器・須恵器・陶磁器・金属製品（文化財認定箱数：31箱）



遺跡位置図 (S = 1:50,000)

調査の概要

今回の調査は、山形広域都市計画道路事業3・2・5号旅籠町八日町線における昨年に続いての調査である。また、山形城三の丸跡においては当センターで行う24回目の調査となっている。

一昨年と昨年度の22・23次調査で、1～8の調査区を設定している。今年度は新規に9～11区までを設定し、7区の北側が未調査であったため併せて調査を行った。昨年度までの調査概要を以下に記す。北側に位置する1区・2区北側・8区から、近世前半の陶磁器類が出

土している。この区域では明確な古代の遺構は検出されおらず遺物も数点である。事業区内で中央に位置する2区の南・3・5・6区では、近世後半の遺物や遺構が検出されている。石組みの井戸や水場と考えられる石組み遺構などが検出されている。遺物では堀田氏時代の赤瓦や陶磁器などが出土している。また、奈良・平安時代の竪穴建物も見つかっており、特に2区では、8m四方もある大型の竪穴建物が見つかっている。当時の一般的な建物の大きさが約4m四方であることを考えると大きさが際立っている。南側に位置する4区・7区の南側では古代の遺構が目立つ。4区では2区で検出した大型竪穴建物と同様の規模の竪穴建物が検出されている。7区の南側では約4m四方の竪穴建物が2棟検出されている。時期はいずれも8世紀末～9世紀初頭に属するとみられる。

遺構と遺物

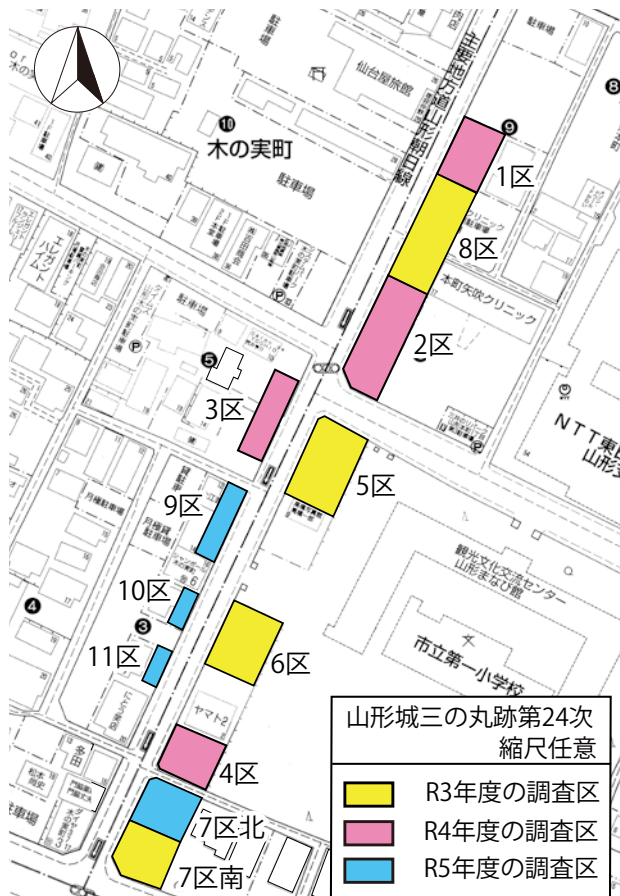
今年度の調査結果も基本的には昨年度までと同様である。但し、9～11区では近世に属する遺構・遺物は確認出来たが古代に属するものは確認出来ていない。9区では大型の土坑と南北に続く溝が確認された。大型の土坑からは「かわらけ」や近世前半に属する陶磁器が出土

している。土坑の周りから柱穴が検出されており、屋根が掛けられていたと考えられる。南北方向の幅は約2.2m。検出面からの深さは深いところで1.1m、浅いところで約80cmを測り、2段構造となっている。溝は幅約1m、検出面からの深さ約80cmを測る。溝は南東側の4・7区に繋がっていることが確認された。遺物は少なく詳細な時期は今後の検討課題である。

10・11区ではピットや土坑が検出されたが調査区が狭いこともあり、全容が明確になるものはなかった。

7区の北側では近世の遺構として、9区から延びる溝跡、石組み遺構、大型の土坑が確認されている。石組み遺構は、調査区の西側に位置し、3～4段程度の石組みが確認された。大型の土坑は形が不定形で範囲が5m以上、深さ80cm程の遺構である。遺物は「かわらけ」が多く出土している。ほとんどが口縁部に煤が付着した状態であったことから灯かりをともし^{こえんぶ}燈明皿^{すす}として使用されたと考えられる。また、江戸時代初期に焼かれた九州地方の焼き物も出土している。

5・7・9区で検出された近世前半に使用されたと考えられる大型土坑や石組み井戸も含めた構築に時間の掛か



第1図 山形城三の丸第24次調査区概要図

る遺構を考えると、遺構が構築されたとみられる中世末期に大規模な開発が想定できる。恐らく三の丸の拡張に伴うものと予想される。

奈良・平安時代ではピットや溝、掘立柱建物が検出された。掘立柱建物は2間×1間以上の規模の側柱建物^{がわぼしら}である。建物は調査区外に延びている。この建物は昨年検出した竪穴建物と向きが揃っており、同時期の建物と考えることができる。その他、珍しい遺物として取っ手がついた須恵器の鉢が出土している。また、黒色包含層から縄文時代後期前半期の粗製深鉢が出土している。



写真1 9区:大型土坑 SK613



写真2 7区北:性格不明遺構 SX720 出土遺物



写真3 黒色層出土:縄文土器(縄文時代後期前半)